

時々落ちて怪俄なきは何か地面に着くときに上方に足もて地を蹴て飛び上がる等のことをなすものか不思議に怪俄なきは如何といふに武田中尉苦笑して「いや機の破損せざる限り落ちるにはあらず操縦して降りる」なりと。成る程落ちるにはあらずして降りるものならん。それより格納庫にて飛行機の實物について説明を聴き飛行船及水素發生裝置等を參觀し飛行場を過ぎりて木村徳田二中尉の紀念塔に向ひ此處にて晝の辨當を開き二時の汽車にて歸途につきぬ。

採 集 日 記

九月廿四日。理科二部四學年生蒲田大森から新田村邊に昆蟲の採集を爲す新田神社にて留學生鄭氏は記念の撮影をなし何れも最後の採集とて心残り多く夜に入りて歸京す。

九月廿六日。理科二部三學年蒲田から目黒邊に昆蟲採集を試む本日は風暴くして甚だ不結果なりし。

十月三日。理科二年生池上から目黒邊に昆蟲採集に行く。

十月十日。理科一部三年生大宮に昆蟲採集に行く此日ミツカドコホロギを活きたる儘に多く採集し歸る。

ヶ月に垂んとする迄美しき聲にて鳴き居たり。

九月十九日。理科一年生吉祥寺より井頭辨天高井戸方面に植物を採集したり。

九月廿四日。理科一部三年生及び理科二年生は高尾山に植物を採集せり。

十月九日。理科二部四年生大日本ビール會社を參觀したり。

十月十日。家事科一年生蒲田より池上本門寺に至り其途中の植物を観察す。

十月十七日。理科一年生は鴻之臺に植物採集に行く。

富 士 登 山

理科二部四年

七月十二日。登山の第一日

午前五時廿五分飯田町驛より汽車に乗る。矢部沼野兩先生御引率のもとに行を共にするもの九名初めの程は曇り模様なりしも次第に朗明雲霧を披きて青天をみるに至れり一行の楽しみは一入なり。

行く行く小佛峠の隧道を経て左方に桂川の深き水蝕谷を望みつゝ猿橋に達すれば所謂富士熔岩の一流は實にこの地に至り居り水流の爲め侵蝕せられて夫の著明